

はばたき

2013 冬号 第28号[通巻第139号]
平成25年1月発行[季刊]

編集・発行/佐世保中央病院 佐世保市大和町15番地(広報委員会)
TEL 0956-33-7151 FAX 0956-33-8557 E-mail sch@hakujujikai.or.jp
社会医療法人財団 白十字会ホームページ <http://www.hakujujikai.or.jp>

はばたき第28号 ● もくじ

- ① 2013年理事長年頭あいさつ
- ② 2013年病院長年頭あいさつ
- ③ リウマチ・膠原病センターでの取り組み VOL.4
- ④ 最新!! 医療機器“MEE-1200Neuromaster”
- ⑤ 心外の新しい治療について
- ⑥ 【ELNEC-J】を長崎県で始めて開催しました。
- ⑦ 震災ボランティア
- ⑧ 放射線技術部について
- ⑨ 患者様の声～ご意見箱より～
- ⑩ 第二回日本認知症予防学会学術集会“浦上賞”を受賞いたしました。
- ⑪ 市民公開講座
- ⑫ 外来診療担当表



東北被災地応援ツアー概要
(関連記事は7ページ)

基本理念

患者さんが一日も早く社会に復帰されることを願います。

基本方針

1. 患者さんの権利を尊重し、患者さん中心の快適な療養環境を提供いたします。
1. 地域医療機関との連携に努め、市民のニーズに合った診療活動を展開することにより、社会に貢献できる病院を作ります。
1. 職員の総和をもって、納得の医療を推進し、患者さんから信頼され、愛される病院を作ります。
1. 最新の医学情報と医療設備を導入し、日進月歩の医学に正面から取り組みます。
1. 病院人として社会人として、信頼される人格をもった責任ある人間を育成いたします。
1. すべての職員にとって、かけがえない価値ある職場であるよう努力いたします。

医療を受ける人の権利と義務

1. いかなる差別もなく公平な医療を受けることができる。(受療権)
2. 自身の病状・診断・予後・治療などについて、納得できる説明を受けることができる。(知る権利)
3. 医療者の提案する診療計画を自らの意思で決定することができる。(自己決定権)
4. 個人情報やプライバシーを保護される権利がある。(プライバシー保護権)
5. 他施設の医師に相談することができる。(セカンドオピニオン権)
6. 医療者に対し、自身の健康・病状に関する情報を正確に伝える義務がある。(情報提供義務)
7. 病院業務に支障をきたさないよう協力する義務がある。(診療協力義務)



2013年理事長年頭あいさつ

佐世保中央病院 理事長 富永 雅也



皆様、あけましておめでとうございます。健やかに新しい年をお迎えになったこととお喜び申し上げます。

佐世保中央病院は平成7年に大和町へ移転竣工以来、18年目を迎えておりますが、この間に医療を取り巻く環境は大きく変化しました。急激な高齢化に伴い、患者さんの年齢は上がり、治療に全力を尽くしても、筋力の衰えなど生活の場に安心して帰れる状況に戻してあげなければ退院できない方も多くみられます。加えて、認知症を併発している患者さんの割合も増えました。

しかし、その一方で、医療費の支払い方式は、DPCという一日定額のまるめに変更され、在院日数の短縮が求められています。国が示す2025年の急性期病棟のそれはたったの9日です。つまり、治療とリハビリ、そして認知症対応をほぼ同時並行的に行わないと生活の場に返してあげられないわけです。このような短期集約的な治療を可能とするには「多職種協働」が必要となって参ります。この「多職種協働」をどのように展開していくか、すべての職種の想像力を結集しなければなりません。公的な病院ではできない自由で独創的な発想と行動力、そして職員全員の力でこの挑戦を成功させたいと考えております。

また、法人全体で本年は「在宅復帰に向けた法人内連携」に取り組んで参ります。近年、我が国は病院や介護施設での施設ケアだけでなく、在宅の場をすそ野に広げる地域包括ケアシステムを提唱して参りました。この中で国は老人保健施設に病院と在宅とをつなぐ中間施設としての位置づけを強く求めています。これに応じて、白十字会での老人保健施設では一年以上前から「在宅復帰強化宣言」をし、退所者の50%以上の在宅への復帰とベッド回転率の向上を目指し取り組んで参りました。本年はその目標達成に向け、待ちの姿勢ではなく、こちらから積極的に動いて参りたいと思います。

この地域包括ケアシステムの本来の目的を果たすためには、病院に患者さんが入院した当初から、患者さんの次のステップが在宅なのか、施設なのか判断し、在宅ならばその人を支えるための通所サービスや訪問系サービスをどのように組み立てて、滞りなく提供できるのかが問われています。それに応えるためには多職種協働は勿論のこと、多施設との法人内連携が必要となって参ります。

この地域包括ケアシステムがこれからの医療・介護の基本になることは間違いありません。白十字会としましては、地域包括支援システムを活用し、地域の皆さんへ支える医療・介護を提供できるよう在宅連携推進プロジェクトを進めて参りたいと考えています。

本年の皆様のご多幸を祈念し、年頭のあいさつといたします。

2013年病院長年頭あいさつ

佐世保中央病院 院長 植木 幸孝



皆様、明けましておめでとうございます。

常日頃、佐世保中央病院が大変お世話になり厚く御礼申し上げます。今年もどうぞよろしくお願いいたします。

佐世保中央病院は、今年4月で社会医療法人財団3年目となります。長年の救急医療の実績が評価され、社会医療法人の認定を受けましたが、国や自治体の医療政策上、公的医療機関と同様の扱いを受けることとなり医療提供面において都道府県が作成する医療計画に記載された地域医療において特に必要とされる救急医療、災害時における医療、へき地医療など公共的な医療を更に担って行きたいと思っております。

地域医療という言葉調べてみますと地域医療とは、「地域住民が抱える様々な健康上の不安や 悩みをしっかりと受け止め、適切に対応するとともに、広く住民の生活にも心を配り、安心して 暮らすことができるように、見守り、支える 医療活動」とあります。またある本では、「健康・医療・福祉の各分野の枠を超えて、地域社会 の構成員の健康問題・疾病と向き合い、生活の質の 向上を図る」とあります。

社会医療法人財団白十字会は、これまで通り、理念に沿って、職員一同、社会医療法人に課された公益性を認識し、白十字会の基幹病院として地域の皆様が望む安全・安心の医療・福祉を提供し、地域医療を更に支えていく所存であります。今後とも関係諸機関と地域の皆様のさらなるご協力、ご支援を賜りますようよろしくお願いいたします。

また、佐世保中央病院は、佐世保医療圏の地域医療支援病院に認可され、本年2月で6年目を迎えます。地域医療崩壊が叫ばれる中、地域に欠かせない急性期病院として当院では、特に救急体制の整備、診療連携をすすめてまいります。

佐世保中央病院は、各部門の連携（他職種共働）し、急性期病院として以下の実現を目指したいと思います。今後も変わらないご支援をお願いします。

- 患者様に満足される安心で質の高い医療の提供
- 中央病院の特色を活かした地域医療の提供
- 在宅医療の推進
- 質の高い医療人の育成
- 臨床研究を通じた医療の向上への貢献

平成25年が住民の皆様にとりすばらしい一年となりますようお祈り申し上げます。今年もよろしくお願いいたします。

リウマチ・膠原病センターでの取り組み VOL.4

薬剤部 曾根本恵美

今回は、薬剤師のリウマチ治療への関わりについて紹介します。

リウマチ教育入院での薬剤指導

佐世保中央病院では、関節リウマチと診断された患者さんに、病気と治療に関する知識をもっといただけるようリウマチ教育入院を勧めています。教育入院では、看護師、薬剤師、リハビリ、栄養士、検査技師などのスタッフが病室にうかがい、治療や生活上の注意点等について説明を行います。

薬剤師は服用中の薬や、入院中に開始された薬の飲み方、副作用、注意すべき点について説明します。また、関節リウマチの薬全般についても資料をお渡しし、情報提供をしています。

関節リウマチにおける薬物療法は効果が出てくるまでに時間がかかるものが多く、飲み忘れがあると十分な効果が得られません。飲み薬で治療中の方は根気強く服用してください。



リーフレット例

処方薬	剤形	お薬の名称	薬機	服用方法	特徴的な副作用	重大な副作用
		免疫抑制薬				
		アザルファイリン錠 (100 mg)		内服	発熱、悪心、嘔吐、腹痛、気管炎、気管支炎、肺炎、腎障害、腎臓病	結核性肺炎、奇形胎児、ネフローゼ症候群、肝機能障害
		リマチル錠 (100 mg)		内服	悪心、嘔吐、胃痛、口内炎、頭痛、眩暈、腰痛、手足麻痺	結核性肺炎、奇形胎児、ネフローゼ症候群、肝機能障害
		メタボロブクローゼ錠 (100 mg)		内服 (快薬)	発熱、少汗、口内炎、悪心、腰痛、肝障害、腎障害	結核性肺炎、奇形胎児、多発性骨髄炎、重症無菌性髄膜炎
		オーラール錠 (100 mg)		内服	発熱、赤痢、頭痛	結核性肺炎、奇形胎児、ネフローゼ症候群、肝機能障害
		リドール錠 (20 mg)		内服	下痢、口内炎、発熱、気管炎、腎障害、腎臓病	結核性肺炎、奇形胎児、ネフローゼ症候群
		コアラム錠 (25 mg)		内服	腎障害、発熱、少汗、頭痛、口内炎、悪心、下痢、血圧上昇	結核性肺炎、奇形胎児、肝機能障害、消化性潰瘍
		免疫抑制薬				
		リウマトレックス錠 (2 mg)		内服	発熱、悪心、口内炎、腰痛、肝障害、腎障害、頭痛、倦怠感	肺炎、結核性肺炎、奇形胎児、肝機能障害、膵炎、腎機能障害
		アラバ錠 (10 mg/20 mg)		内服	下痢、悪心、頭痛、腰痛、高血圧、頭痛、悪心、肝障害	肺炎、結核性肺炎、奇形胎児、肝機能障害
		プロクワフ錠 (0.5 mg/1 mg)		内服	下痢、悪心、頭痛、血圧上昇、血圧上昇、悪心、腰痛、腎障害、腎臓病、頭痛	肺炎、結核性肺炎、奇形胎児、イシカス、ネフローゼ症候群、心臓病、心臓病
		プレドニオン錠 (50 mg)		内服	発熱、発熱、腰痛、腰痛、腎障害、肝障害	肺炎、結核性肺炎、奇形胎児、肝機能障害

リウマチ治療薬一覧

外来治療への関わり

関節リウマチの薬物療法は内服が中心でしたが、2000年代に入って生物学的製剤と呼ばれる点滴や注射の薬が登場しました。これらの薬によって、関節リウマチの症状を改善し、関節破壊を食い止めることが可能となっています。生物学的製剤の中には自宅で自己注射ができるものもあります。また、点滴の生物学的製剤は外来で日帰りの治療が可能ですので、患者さんの生活パターンに合わせた治療法が選択できます。

主治医が患者さんに生物学的製剤を提案した場合、薬剤師がリウマチセンターにうかがい、効果や副作用について説明を行っています。このときに服用中の薬についても確認しています。その後、看護師からの説明があり、治療開始に同意されるとその日のうちに必要な検査を行います。

点滴治療の場合は、点滴開始後に薬剤師がベッドサイドに出向き、副作用やアレルギーが出ていないか、薬の飲み忘れはないか、リウマチの症状の変化について確認をしています。



外来での指導風景

関節リウマチの薬についてわからないことや不安なことがありましたら、お気軽に薬剤部までお問い合わせください。

神経機能検査装置 MEE-1200Neuromaster 日本光電工業(株)

臨床工学部 谷口一俊



この装置は、脳神経外科、心臓血管外科、整形外科領域において、手術中に患者様の神経を刺激し、神経の状態を観察する手術支援システム装置の1つです。体性感覚誘発電位(SEP)、運動誘発電位(MEP)を手術中に測定することで、手術中の合併症を早期発見し未然に防ぐことを目的としています。

手術中のモニタリング装置とは、全身麻酔で手術を行っている間でも、患者様が手足を動かす運動機能や、感覚機能などの脳機能が保たれているか確認するための装置で、手術をより安全に進めていくことが可能となります。

体性感覚誘発電位(SEP)は手首を通る神経を電気で刺激し、頭皮に装着した2つの電極電位を測定します。これにより感覚神経の機能を調べることができます。

運動誘発電位(MEP)は頭皮に2つ電極を装着し、神経刺激を与えることで筋肉を収縮させ、筋電図を測定します。これにより運動神経の機能を調べることができます。

また、MEPは開頭手術の際に、脳を直接微弱な電気で刺激し、四肢の動きを筋電図により捉えることで運動の機能を確認するものです。

たとえば、脳動脈瘤破裂によるくも膜下出血の手術では、脳動脈瘤にクリップをかけて動脈瘤を処置した後、脳動脈に虚血を生じてしまった場合に、MEPの波形が低下するか消失することにより、脳に異常を生じたことを術者が知ることができます。その時はクリップをかけ直すことにより脳の虚血状態を改善し、MEPの波形が回復すれば、クリッピングに問題があったことがすぐにわかります。特にMEPがSEPより有用性が高いと言われており、導入する病院が増えてきています。当院では主に脳神経外科手術において使用しており、術中モニタリングを施行しております。脳外科医、麻酔科医、臨床工学技士がチームとして、積極的に医療安全に取り組んでおります。

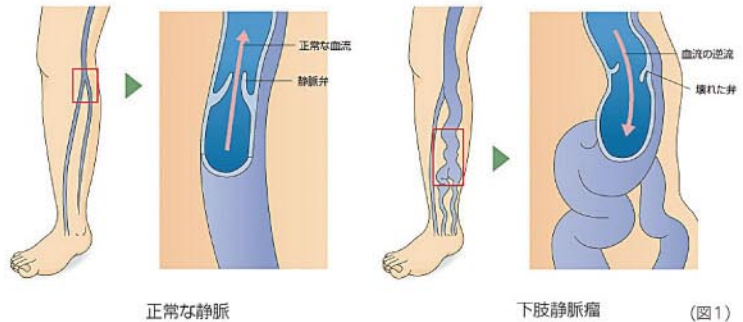


下肢静脈瘤の新しい治療 ～血管内レーザー焼灼術～

佐世保中央病院 心臓血管外科 谷口真一郎

みなさん、足がポコポコと腫れていたり、こむら返りやだるくなったりしたことはありませんか？ひよつとするとそれは、下肢静脈瘤かもしれません。

下肢静脈瘤とは、様々な原因により足先から心臓へ戻るはずの血液が足の表面の静脈へ逆流してしまい、血管が蛇行し瘤(こぶ)になる病気です(図1)。その原因は、加齢や肥満、長時間の立ち仕事、妊娠など様々で、女性に多い病気です。下肢静脈瘤は、足の静脈が浮き出てきて目立つようになり美容上の問題点があるだけでなく、放っておくと足のだるさやむくみ、かゆみや湿疹の原因となります。最終的には出血、潰瘍にまで発展し、日常生活の質を落とすような結果に至りますので、放置してはいけません(図2)。



(図2)

静脈瘤は一人として同じではありませんので、次の3つの治療法を組み合わせたオーダーメイド治療となります。

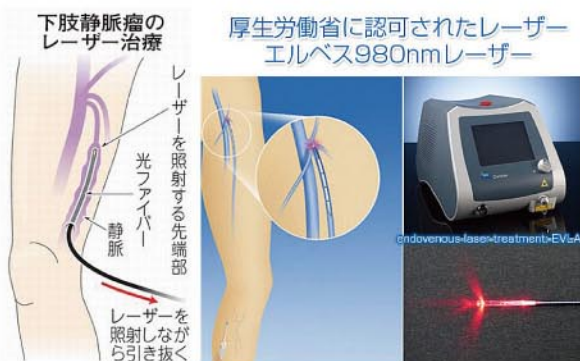
- ① 圧迫療法(保存的治療): 医療用の弾性ストッキングを着用し、足全体を圧迫します。
- ② 硬化療法: 静脈瘤自体に薬剤を注入する事で血管を閉塞させます。
- ③ 外科治療: 高位結紮術、静脈瘤切除術、ストリッピング術(静脈抜去術)、レーザー焼灼術などがあります。

軽症であれば①の圧迫療法を、中等症以上であれば②の外科治療を中心とした治療が勧められます。ストリッピング術(静脈抜去術)は100年以上も前から行われている古典的な外科治療ですが、壊れている静脈ごと引っこ抜くため、再発が少なく確実な方法で、一般に広く行われています。

しかしながら、医学の進歩、医療機器の発達が目覚ましいものがあり、静脈瘤治療においてもレーザーを用いた先端医療が行われるようになってきました。レーザー医療は3つの『低』の実現

が期待される治療です。つまり、①体への負担が少ない『低侵襲』、②大きく切らない『低リスク』、③入院日数や自己負担が減る『低コスト』の3つの『低』が可能となります。

下肢静脈瘤に対する血管内レーザー焼灼術は、逆流している静脈の中に光ファイバーを通し、レーザーにて血管の内側から静脈の壁を焼く治療法です(図3)。焼かれた血管は変性して硬化し細く



(図3)

なり、従来のストリッピング手術と同じ効果が得られます。ストリッピング術に比べ出血も少なく、傷跡もほとんど残りませんので、『低侵襲』かつ『低リスク』です。従来のレーザー焼灼術は自費診療のため自己負担が20～30万円でしたが、当院では平成25年より保険診療で治療を開始します。入院期間は一般に2泊3日ですが、ご希望により日帰り手術も可能ですので、『低コスト』でもあります。

佐世保中央病院は、長崎県北医療圏では唯一の保険診療で血管内レーザー焼灼術が行える施設となりました。いかがですか？今まで入院期間や医療費のことで躊躇されていた方、足の事でお悩みの方！当院の静脈瘤専門外来までどうぞお気軽にお問い合わせください。

【ELNEC-J】を長崎県で始めて開催しました。

「ELNEC-J」とは看護師に対する緩和ケア教育で、「アメリカ看護大学協会」と「米国エンドオブライフ看護教育協議会」の9つのモジュールを日本版に開発したプログラムを使用するもので、今回、「ELNEC-J指導者資格」を持つ緩和ケア認定看護師が講師を務める伝達講習会が行われました。



2007年4月1日「がん対策基本法」が施行され、がん診療に携わる医療者の緩和ケア教育である、「緩和ケア医師育成研修PEACEプロジェクト」と同じで、終末期医療に携わる看護師に必須とされる知識習得のためのプロジェクトです。

今回は、佐世保市立総合病院看護部との共同開催で2012年11月10日(土)～11月11日(日)の2日間佐世保市立総合病院内にて開催しました。次年度は佐世保中央病院で開催します。



宮崎県からの参加もありアンケートには「目から鱗の研修だった」、「各施設の取り組みがわかり自院の不足点や良い点も知ることができた」、「情報交換ができ、顔にみえる関係が築けた」などの感想がありました。

緩和ケア認定看護師 桃田美智・福田富滋余

震災ボランティア

■平成24年度東北被災地応援ツアー概要

白十字会では、震災後、月日の経過とともに忘れがちな被災地の現状と被災者の方々の思いを知るべく、実際に現地を訪問し復興支援の一助となる事を目的として「東北被災地応援ツアー」を実施し、現地でのボランティア活動に参加しました。

訪問地: 宮城県本吉郡南三陸町

日程及び参加者数

1班 平成24年 9月29日(土)～10月 2日(火) 11名

2班 平成24年10月20日(土)～10月23日(火) 20名

3班 平成24年11月11日(日)～11月14日(水) 12名

主な作業内容: 瓦礫撤去



東北被災地応援ツアーに参加して

総務課 堀 志織

●1日目(9月29日)仙台市・震災被災地視察

13:40仙台空港へ到着。仙台空港→仙台市内のホテルまで、語り部の船田さんにバスに同乗して頂き、仙台市の被災地を案内して頂きました。

被災地をまわりながら、震災当日の話や、防災訓練、マニュアルの大切さ、また現在ではメンタル面の問題もでてきているなど、多くのことを語っていただきました。

今回の震災で多くの方が亡くなってしまったのは、津波が来るまでに30～40分の時間がかかったことで、避難をしていた人たちが、また家へ戻ってしまいこのような大惨事になってしまったということでした。

これからは、ボランティア活動だけでなく、被災地へ来ていただくことが支援になり、また、この震災があったことを忘れないでほしいということでした。

語り部の「船田 究(キワム)さん」
震災時は、仙台空港も約3mまで波が
きました。(このライン)



●2～3日目(9月30日～10月1日)南三陸町でのボランティア活動

南三陸町・五日町での2日間、がれき撤去のボランティア活動を行いました。この地域は、1mの地盤沈下があり満潮時には冠水し、また重機の乗り入れが出来ず復興が大変遅れています。

がれき撤去の作業は、流された家の基礎の部分だけが残り、そこを掘り起こして、分別作業を行っていきます。ガラスや器の破片やコンクリートや瓦、大きな物ではマンホールのフタができました。町の人々は、町がきれいになっていく光景を見ることで心が安らぎ、励みになるということでした。



(ボランティアセンター)



(南三陸町・五日町)



ボランティア活動風景



●4日目(10月2日)南三陸町防災庁舎→さんさん商店街→松島

最終日は、最後まで避難を呼びかけ亡くなられた職員の方がいた防災庁舎へ行きました。

ここを訪れた時は、ぐっと胸に込み上げてくるものがあり、また防災庁舎の跡を見て、津波の恐怖を改めて感じました。亡くなられた多くの方のご冥福をお祈りいたします。

その後、さんさん商店街へ南三陸町での最後の買い物をして、日本三景「松島」で昼食をとり、福岡へ戻りました。



日本三景「松島」

この東北被災地応援ツアーに参加して、とても感慨深い経験をさせていただきました。
南三陸町など小さな町は、まだまだ復興が遅れています。今後も東北の被災地を1人でも多くの方に
応援していただければと思います。

最後に、南三陸町情報を皆様にお届けいたします。
機会があればぜひ、応援を兼ねて被災地を訪ねてみては如何でしょうか？



南三陸町おすすめ情報

●宿泊先:南三陸ホテル観洋

その①「露天風呂」

海の絶景!天気が良ければ日の出が見れます。湯上りのお肌はしっかりとサラサラ。作業で疲れた身体を癒してくれます!!



その②「食事」

毎晩、食べきれないほどの美味しい食事!新鮮な海の幸がいっぱい。



●南三陸・さんさん商店街

その①「食事」

さらさら丼(秋旨丼)
新鮮な魚介類がたっぷりのったどんぶり。ちょっと豪華なお昼のランチでした。



その②「お酒 すず音(発泡清酒)」

シャンパンのような喉ごしで、アルコール分も低く普段あまりお酒を飲めない方にも喜ばれるお酒だそうです。



当院職員にも大人気!!
おいしかったですよ。

病院のお仕事紹介

放射線技術部について

放射線技術部 木村有希

●診療放射線技師とは..

医師の指示のもと、レントゲンやCTなどを撮影することで、病気の診断や治療の補助を行っております。検査や治療の為に、人体に放射線を当てる事が出来るのは、医師、歯科医師、診療放射線技師のみです。

●当院の診療放射線技師について

当院では、現在男性12名、女性3名、計15名の診療放射線技師が在籍しております。

診療放射線技師というと、レントゲンのイメージが強いと思いますが、CTや核医学の検査、さらには放射線治療にも携わっています。また放射線を取り扱わないMRIの検査も、当院では、わたしたち診療放射線技師が行っています。

●画像処理について

当院では最新の医療機器を導入しており、写真を撮影するだけでなく、3次元(3D)画像などを作成することによって、より医師が診断しやすい画像を作っております。

右の画像はCTで撮影した頭頸部の画像をもとに骨や脂肪などのいらぬ部分を除去することによって、血管だけが3Dでみえるように作成したものです。



おわりに...

私たち診療放射線技師は、患者さまの検査において、必要最低限の被ばくになるように日々努力していますので、安心して検査を受けられて下さい。

なお、被ばくに関する事などは、お気軽にご相談ください。

患者様の声～ご意見箱より～

貴重なご意見
ありがとうございます



「入院に際する初回の5万円のお支払い(入院時預り金)」のご意見について

「入院に際しての初回到5万円を支払うとあるが支払いが困難な場合はどうしたら良いのですか」というご意見をいただきお礼申し上げますとともにご説明が不足しておりましたことをお詫び申し上げます。

ご入院時の「5万円のお預り金」は、ご退院時に入院費に充当して精算させていただいておりますが、ご入院時にご準備が困難な場合は、ご遠慮なく、「⑥番入退院手続き窓口」までお申し出ください。

なお、預り金を含めご入院費のお支払い等についてもご相談を承っております。

医療事務課長 松瀬和代

「立体駐車場1階の公用車スペース」に関するご意見について

「障がい者用駐車スペースが不足していると思うが、立体駐車場1階の障がい者用駐車場となりに公用車スペースが必要ですか?」とのご意見につきましてお答え申し上げます。

ご指摘いただきました公用車スペースは、病院がその場所での管理を必要としている車両分に限っており、これまでもご指摘により台数の見直しを行い、現在では最低限の車両スペースに限っております。

障がい者駐車スペースは現在、ご指摘の立体駐車場1階に6台分、病院正面玄関前に2台の計8台分を確保致しております。

当院の身体障がい者用駐車場につきましては、スペースの関係上、四肢等が不自由な障害者をご自身で運転されてきた方などに優先して駐車していただくようお願いいたしておりますが、他の利用者の方に十分にご理解を頂いていないのが現状です。

また残念ながら、健常者の方・車の乗降について不自由ではない方が駐車されている場合があり、できる限り一般駐車場への駐車を促しておりますが、改善には至っておりません。このような方が最近特に見受けられ、病院としても利用者の方のモラル低下を大変懸念いたしているところです。

今後は当院としても障がい者駐車場の利用に関する掲示などを行い、必要とされている方が利用できるよう、啓蒙に努めてまいります。

皆様のご理解・ご協力をお願いいたします。

施設課課長 石橋 薫

18歳以下の方の面会制限について

『せっかく面会に来たのに18歳以下は病室面会禁止となっていて、会いたかったおじいちゃんに逢えず、悲しい気持ちになりました。なぜ子供は面会してはいけないのですか?おじいちゃんに会いたいです。病室に行かせてください。』というご意見をいただきました。素直なお気持ちを頂戴し、心苦しい限りですが、当院では以下の理由で、18歳以下の方の面会をご遠慮いただいております。

学校など集団生活をする場所においていろいろな感染症(インフルエンザやノロウイルス、はしかやおたふくかぜや風疹やみずぼうそうなどのウイルス性疾患)が発生しやすく、集団発生につながることは珍しいことではありません。

これらの感染症は、病気を自覚する前から人にうつすという特徴を持っていることが多いのです。そのため体調が悪い人の面会を制限することは当然ですが、それだけでは病気の患者さんを守ることはできません。

入院患者様の中には、病気が重い方もおられます。もともとの病気に加えて、弱っている時に、このような感染症をうつされると、場合によっては命に関わることもあるのです。また、このような感染症は近くに行かなくても、空気をただよって、遠くの人につうつていくものもあります。そのため、原則的に学校生活などで集団生活をする機会が多い18歳以下の方のお見舞いはご遠慮いただいております。諸事情により、いっしょにこられた場合は面会ルームで待機していただくようお願いしております。(面会ルームでの面会は可能です)

大事なご家族に一日も早く元気で退院していただくために行っていることです。どうぞご理解、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

院長 植木 幸孝

「採血者の技術向上および再採血時のルール」に関するご意見について

採血者の技術向上や再採血時のルールの取り決めなどに関しての御意見を頂き有難うございました。

当院採血コーナーでは、正確で迅速な検査データを報告するために、実際に検査を実施する臨床検査技師が採血を担当しております。最近では全国の多くの病院で臨床検査技師が採血を行っている状況です。

採血業務を担当する際には熟練度の高いベテラン技師による十分な技術指導や、多くの職員の協力のもとに行う採血の実地訓練等を行った後、患者様の採血を担当するようにいたしております。

しかしながら、患者様の血管の状態、神経の走行などにより再採血が必要な場合や痛みを伴う場合が御座います。担当検査技師は日々、採血技術の向上に努めておりますが、今回、採血の際に複数回穿刺をしなけりばならなかったとのこと、誠に申し訳ございませんでした。

また、2回穿刺をして採血が出来なかった場合には、担当者を変えることとしておりますが、そのルールも遵守されていなかったようで、合わせてお詫び申し上げます。

今後このような事例を防止するため教育・指導を強化し、患者様に安心して採血を受けて頂けるよう、技術の向上に努めてまいります。

臨床検査技術部 丸田秀夫

第二回日本認知症予防学会学術集会“浦上賞”を受賞いたしました。

受賞者のコメント ————— リハビリテーション科 嶋田 史子

2012年9月7日から9日の3日間、第2回認知症予防学会学術集会が北九州国際会議場で開催されました。今回、発表する機会を得て「アルツハイマー型認知症とレビー小体型認知症の早期鑑別 -MMSEにおける3単語遅延再生と五角形描画の乖離-」の内容で研究発表を行いました。認知症の早期発見やそのタイプを鑑別するために、認知症疾患医療センターで行っている認知機能検査から疾患の特徴を見出すことができないかと考えたことをまとめたものです。幸いにも学会賞(浦上賞)を頂くことができ驚いている次第です。これからも認知症疾患医療センターにおいて認知症の早期発見、予防につながる取り組みを自身の役割から見出し、精進していきたいと思います。



市民公開講座

日時 平成25年2月16日(土) 13:00 会場 14:00 開始

場所 アルカスSASEBO 4階中ホール

演題名 「認知症の行動心理症状(BPSD)への対応」(仮題)

講師 佐世保中央病院 認知症疾患医療センター
センター長 井手 芳彦



外来診療担当表

全診療科予約制

平成25年 1月1日現在		月		火		水		木		金	
		午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
内科	呼吸器	小林		大島				小林			
	内分泌							安部(非)(再)	大財(非)	藤山(非)	
	骨代謝										藤山(非)
	腎・透析		浪江						浪江(再)	林(非・再)	林(非・再)
	神経内科	竹尾(再)		竹尾(再) 岩本 (長崎大学担当医)		竹尾		吉村(非)		竹尾(再)	
	新患	一瀬		岩永		植木		西野		岩永	
	再来	植木		岩永	岩本	西野	寺田	西野		寺田	
リウマチ 膠原病 センター	新患	岩永・一瀬	一瀬	岩本		西野				植木	
再来	藤島				尾崎		尾崎		松本		
糖尿病 センター	新患	松本		松本・藤島	尾崎	藤島	松本	松本・藤島		尾崎	
再来	木崎		矢野(非)		中尾(功)		木崎		矢野(非)		
循環器科	新患	赤司		中尾(功)・高原(矢野(非))		木崎・赤司		中尾(功)		木崎・矢野(非)	
	再来	山道		松崎	富永(南)・竹島(非・隔週)	小田	磯本(非・隔週)	小田		大石	
消化器科	(消化管)	草場		木下		松崎		山道		木下・大石	
	(肝胆膵)	浪江・林	浪江・林	浪江	浪江	浪江・林	浪江・林	浪江	浪江	浪江・林	浪江・林
人工透析センター		梶原・重政	※	草場	※	碓	※	武岡	※	佐々木・羽田野	※
外科	新患	碓				菅村		重政		碓	
	再来			菅村		梶原					
	特別顧問外来	國崎				國崎					
脳神経外科		阪元	※	※	※	阪元	※	※	※	阪元	※
心臓血管外科		吉野				衛藤				吉野	
皮膚科		※	※	柴田	※	※	※	柴田	※	※	※
小児科		山口	※	山口	※	山口	※	山口	※	山口	※
泌尿器科		山田	循環器外来 (第1,第3,第5週)	山田	乳幼児健診・予防接種	山田	アレルギー外来 (山田)	アレルギー外来 (第4週休診)	山田	山田	乳幼児健診
新患	徳永	※	南	※	徳永		犬塚	心身症外来	犬塚	神経外来	犬塚
	再来	南		徳永		南	南(前立腺)	徳永		南	徳永
眼科				上松(非)							
耳鼻咽喉科		大里	※	大里	※	大里	大里	大里	※	大里	※
放射線科		平尾	平尾	平尾	平尾	平尾	平尾	平尾	平尾	平尾	平尾
放射線治療計画		堀上・末吉	堀上・末吉	堀上・末吉	堀上・末吉	堀上・末吉	堀上・末吉	堀上・末吉	堀上・末吉	堀上・末吉	堀上・末吉
救急総合 診療部	内科系	木下・大島・中尾	高原	尾崎	担当医	山道	大石	赤司	岩永	西野	大島
	外科系	担当医	担当医	担当医	担当医	担当医	担当医	担当医	担当医	担当医	担当医
メモリークリニック(もの忘れ外来)		井手		井手		井手		井手			井手(再)
専門外来		インターフェロン(新患・紹介のみ) 木下 14:00~16:00 ペースメーカー 木崎・中尾(功) 第2,第4月曜日14:00~16:00 乳腺 佐々木 第2,第4月曜日14:00~17:00		ストーマ 重政 第2火曜日 14:00~16:00 禁煙 菅村 第2,4火曜日 13:30~15:30 ステントグラフト外来 谷口 13:00~14:00		乳腺 碓 14:00~17:00		CAPD 林和 (4週1度・再診) 14:00~15:00 下肢静脈瘤 柴田 14:00~15:00 睡眠 植木 9:40~10:30 (第3)		乳腺 佐々木 13:30~16:30	
健康増進センター		寺園		寺園		寺園		中尾		寺園	
乳がん検診		板倉		野々下・板倉		山本・寺田		寺園・寺田		松永	
健診婦人科(特別顧問外来)		佐々木		碓		佐々木		碓		武岡	
		石丸	石丸	石丸	石丸	石丸	石丸	石丸	石丸	石丸	石丸

※医師の出張等により、休診する場合がございます。受診ご希望の方は予約をお願いいたします。

受付時間 8:30~11:30 / 13:30~16:30

(専門外来・紹介のみ)

診察時間 9:00~12:00 / 14:00~17:00

(専門外来・紹介のみ)

土曜日は、休日診療体制とさせていただきます。

☆:救急部24時間体制 * :当番医 (非):非常勤 (再):再診
※:主に手術・検査の予定ですが、予定が無い場合は診察いたしますのでご確認ください。

すべての診療科において時間帯予約制をとっております。受診を希望される場合は、コールセンターへ事前にご連絡いただき予約をお取り下さい。

受付時間 月~金曜日 8:30~17:30

予約専用電話番号 0800-7000-888 (通話料無料)

医療機関からの紹介状をお持ちの方は TEL/FAX 0120-33-8293 地域医療連携センターまでお願い致します。(土曜日の8:30~12:30も受付けております)